

主 題：模範となる

聖書箇所：ペテロの手紙第一 3章1－6節

よく私たちが耳にすることばですが、「子どもはその親に似る」と言われます。また、「子どもは親の鏡である」とも言われます。つい先日、ラジオで「女の子は母親に似る」と話していました。聞きながら、そうなのかな？と思いました。その子どもの将来を知りたければその母親を見ればいいと…、なるほど！と思いながら聞いていました。確かに、親は子どもたちに影響を与え続けています。365日24時間、良きにつけ悪きにつけ、模範を示していることは確かです。だから、私たちが注意しなければならないことは、どのように生きるか？ということです。子育て中の人も、子育てを終えられた人も、これから子育てをする人も、また、独身の人も、もっと言うなら、女性だけでなく男性も、次のように生きていきなさいと主は教えてくださいます。私たちが見ていくのは、今日は母の日ですが、女性だけに与えられたメッセージではなく、男性である人たちにも、そして、既婚者であろうとそうでなかろうと、すべての信仰者に主が望んでおられることです。それがこの中に記されています。私たちはどのように生きるのか？です。みことばは私たちに「模範となるように」と教えます。今日は、1ペテロ3章からそのことを見ていきます

☆主が教える模範的な生き方

A. 我々の目標 2節

私たちはどのようなことを目標として生きていくのか？ということです。最初に言ったように、このことは女性だけでなく、すべての信仰者に対して教えられていることです。ペテロは二つのことを教えています。あなたはこのようなことを目標として生きていきなさい、このようなことをしっかり追いつめていきなさい、こういう点においてあなたは成長するのですということを教えます。3：2をご覧ください。「それは、あなたがたの、神を恐れかしこむ清い生き方を彼らが見るからです。」と、ここに二つのことが記されています。一つは「主への恐れ」です。もう一つは「聖さ」です。ペテロは「すべての信仰者が主を恐れることにおいて成長すること」を教えています。また同時に、「聖さにおいて成長すること」を教えています。どうぞ、そのことをしっかり覚えてください。この二つのことにおいて私たちは成長することが必要なのです。

1. 「主への恐れ」における成長

2節に「神を恐れかしこむ」と書かれています。これは「畏敬の念、尊敬」のことです。「主への尊敬において、主への畏敬の念において」成長するようにとペテロは教えるのです。私たちの信仰生活も気を付けていなければ、ただの形だけのものになってしまいます。信仰の形骸化です。確かに、神へのささげものをしていた、神への奉仕をしていた。けれども、そのことを主ご自身が預言者を通して厳しく戒めておられるケースがマラキ書に書かれています。マラキ1：6「子は父を敬い、しもべはその主人を敬う。もし、わたしが父であるなら、どこに、わたしへの尊敬があるのか。もし、わたしが主人であるなら、どこに、わたしへの恐れがあるのか。——万軍の【主】は、あなたがたに仰せられる——わたしの名をさげすむ祭司たち。あなたがたは言う。『どのようにして、私たちがあなたの名をさげすみましたか』と。」「どこに、わたしへの尊敬があるのか。」と問われています。私たちの信仰を振り返ってどうでしょう？イエス・キリストに対する畏敬の念は増し加わっているのでしょうか？主への尊敬の度合いは増し加わっているのでしょうか？

心から主を崇めている人たち、心から主を恐れている人たちは間違いなく、どんなときでも神第一に考えます。その人が考えるのはいつも神が第一です。主が望まれていることは何か？主が喜ばれることは何か？どうすれば主を喜ばせることができるのか？どうすれば自分の愛を表わすことができるのか？と、そのことを考えて生きている人です。私にとって主イエス・キリストは私のいのちそのものと、そのように思いそのように生きている人、まさに、それこそ主を恐れて生きている人です。

また、同じように喜んで主に従おうとしている人です。みことばが私たちに教えることは、ただ、「神を愛しています」とか「神を敬っています」とか「神を恐れています」とことばで言うのではなく、そのように生きているかどうかです。そのことがこの中に記されているのです。私たち信仰者ひとり一人の心を吟味したときに、もしかすると、かつて持っていたような「主に対する畏敬の念」が薄れているかもしれません。みことばが先ず教えてくれることは、主を心から恐れることにおいて成長しなさいということです。これは私たちが天に行くまで、この地上を歩む間、常に、心に留めてそのように歩み続けることが必要です。

2. 「聖さ」における成長

2節に「清い」ということばが出て来ます。もちろん、罪から離れた聖い生き方ですが、このことばは辞書によると「非の打ちどころのない、落ち度や申し分のない行動や振る舞いを表わす」と定義されています。つまり、主を恐れるだけでなく、だれからも非難されることのない生き方です。だれも後ろ指を指すことができない、そういう生き方を追い求めて生きなさい、そのような生き方において成長しなさいと言うのです。このことに関して、ヘブル書の著者は非常に分かり易く教えています。ヘブル12:14「すべての人との平和を追い求め、また、聖められることを追い求めなさい。聖くなければ、だれも主を見ることができません。」と。ここでは二つのことが教えられています。(1)すべての人と平和をもちなさい。つまり、心の中にだれかに対する怒りや憎しみが無いかどうかということです。(2)聖く生きていきなさい。なぜ、それが必要なのか?「聖くなければ、だれも主を見ることができません。」と書かれています。なぜ、著者がこのように言ったのか?もし、あなたが心の中にだれに対しても悪い思いをもっていないなら、すべての人と平和をもっている、そして、聖さを求めているなら、そのあなたの生き方そのものが人々への良き証になるということです。

「主を見ることができません。」とはその人のうちに罪があるからです。しかし、もし、あなたが神の前を正しく歩んでいるなら、感謝なことに、神はあなたを用いてくださって、あなたはすばらしい証を為すことになるということです。だから、私たちは心をしっかりと吟味して、人に対して間違った思いをもっていないかどうか、心の中でずっと持ち続けている憎しみはないかどうか、だれかを赦すことができないという、そのような間違った思いがないかどうか?と調べなければいけません。そして、主の前を正しく歩むことによって、みことばが教えるように、あなたはすばらしい証し人として用いられるのです。なぜなら、人々はあなたを通して主イエス・キリストを見るからです。

主を恐れている人は主の前に正しく生きようとします。そういう人は、確実に、神によって用いられ続けるのです。私たちはそのために救われ、そのために生きているということを覚えてください。私たちはこの地上にあって主のすばらしさを証するために生きています。主の救いがどんなにすばらしいものであるのかを証するために生きています。パウロがピリピ2:12でこのように言いました。「そういうわけですから、愛する人たち、いつも従順であったように、私がいるときだけでなく、私のいない今はなおさら、恐れおののいて自分の救いの達成に努めなさい。」と。これは罪の赦しを得るために努力をしなさいということではありません。ここで言われていることは、罪赦された者として、神の前を正しく歩み続けていきなさいということです。「自分の救いの達成」とは、救われた者がよりキリストに似た者として変えられ続けていく「聖化」のことです。聖く変えられていくというクリスチャン生活のことです。なぜなら、神は私たちを救ってくださったときから、私たちを主イエス・キリストに似た者へと変えようとしてくださっているからです。

ですから、ペテロが初めに教えることは、パウロが言ったように、救われた者としてそれにふさわしく生きていきなさい、主の前を正しく生きていきなさい、あなたを通して主が鮮明に人々に明らかになっていくように、そのために生きていきなさい。主を恐れながら、聖さを求めて、その点において成長するように、信仰者としてしっかり成長するようにということです。

そのために、私たちは常に主の臨在を覚え続けることです。あなたの心をすべて見ておられ、あなたの思いをすべてご存じある神が、常に、あなたとともにおられるのです。それは確かに、励ましにもなります。しかし、恐れももたらされます。なぜなら、私たちは全知である神の前に立つからです。その方によって必ずさばかれる日が来るのです。だから、私たちは日々罪を告白しながら、罪からできるだけ離れながら、神のみことばをしっかりと学び、そのみことばに従っていきましょう。そして、私たちは変えられ、そうして私たちはこのすばらしい私たちの救い主、私たちの主イエス・キリストの栄光を現わしていきましょうとのことです。

繰り返しますが、これは女性に対してだけの教えではなく、すべての信仰者に対してこのように命じられています。救われた者としてそれにふさわしく生きていきなさい、しっかり信仰において成長しなさいと。⇒「主への畏れ」があなたの生き方の動機になっているか?

B. 我々の特徴 1、3-6節

もし、あなたがそのように歩んでいくなら、そこには必ずある特徴が生まれて来ます。ペテロはここに四つのことを教えています。あなたが主において成長することによってこのような特徴がより鮮明に示されていきます。

1. 主のみことばへの服従 1節

霊的なクリスチャンは神のおことばに忠実に従おうとします。だから、成長します。そして、成長した人はなおそのように生きていこうとします。3:1には「同じように、妻たちよ。…」とあります。確かに、これから妻に対する教えを言うのですが、これは初めて出て来た教えではありません。2:13を見るとクリスチャンと国家の関係における服従のことが書かれています。「人の立てたすべての制度に、主

のゆえに従いなさい。それが主権者である王であっても、神がお立てになったものだから、そのリーダーに制度に従いなさいとペテロは命じました。2：18には「しもべと主人の関係」が書かれています。当時はそのような関係があったからです。「しもべたちよ。尊敬の心を込めて主人に服従しなさい。善良で優しい主人に対してだけでなく、横暴な主人に対しても従いなさい。」と、奴隷たちに対して、その置かれている身分や立場を嘆いたりするのでなく、あなたの責任は主人に従うことだと言います。

その上で、3：1に「同じように、」と続くのです。そして、クリスチャンの妻と夫の関係における服従についてここで教えようとしします。「妻たちよ。自分の夫に服従しなさい。」とあります。「服従しなさい。」ということばはこうして日本語で見ると命令のように見えますが、実は、これは命令形ではありません。確かに、ペテロはここでクリスチャンの妻たちがこれらのことを実際に行動に移していくことを勧めています。クリスチャンの妻たちが夫に服従することを望んで勧めています、命令形を使わなかったのです。ペテロが望んでいるのは、ただの形、心の伴わない行動ではなかったのです。妻たちの心からの行動を望んだのです。「言われることをまあまあ守っているし聞いているからそれでいいでしょう」「余り気が乗らないけれど従っていますよ」と、このような態度をもって従うことを教えているのではありません。愛をもって自主的に服従することを教えています。

*** この服従に関して、**

1) 無条件の服従

夫が救われているとか救われていないとかに全く関係なく服従しなさいと教えています。夫がクリスチャンだから従います、クリスチャンでも霊的な人だから従います、というようには教えていないということです。無条件なのです。「たとい、みことばに従わない夫であっても、」とあります。この「従わない」というのは現在形で、継続して従い続けていない、逆らい続けていると、まさに、救われていない人の特徴です。ですから、自分の夫が未信者であっても変わらないと言うのです。あなたは心からその夫に従っていきなさいと。もちろん、皆さんもご存じのように、罪を強要された場合は別です。

2) 無言のふるまい

「妻の無言のふるまいによって、」とあります。「無言」とありますが、その反対は「言うこと」です。どのようなことを言うのでしょうか？考えられることは、夫に対して説教する、夫に一生懸命教えようとする、一生懸命責めているかもしれません。また、非難しているかもしれません。脅している？あなたは地獄ですよ！と。ペテロはそのようなことはしてはいけないと言います。夫がどのような人であっても従いなさいと言います。

「ふるまい」とありますが、これは2節の「生き方」と同じギリシャ語です。つまり、妻の無言の生き方、行動、生活という意味をもったことばです。だから、ペテロは「妻たちよ、あなたは主を恐れて、聖さを求めて歩んでいる。ゆえに、あなたは主のみことばに従って行こうと願っている。だから、私はあなたに勧める。あなたの夫がどのような夫であっても、あなたは彼に対して小言を言ったり、非難したり責めたりするようなことは一切してはならない。」と言います。神がアダムとエバを造られたときのことを思い出す必要があります。神が男性を造られ、そして、女性を造られた。それはどちらが優れているということではありません。神が男性を造られたときに、彼にはふさわしい助け手がいなかったのを妻を造ったのです。異なった役割をもっているのです。「神である【主】は仰せられた。「人が、ひとりであるのは良くない。わたしは彼のために、彼にふさわしい助け手を造ろう。」（創世記2：18）と。

どちらも神が造られた最高のものです。その神の創造を考えたときに、もし、あなたが既婚者であり、妻であるなら、あなたが思い出さなければいけないことは、神はあなたを「助け手」として造ったということです。考えるべきことは、あなたは夫にとってすばらしい助け手であるかどうかです。あなたの夫がクリスチャンなら、夫が霊的な者として成長していくために、あなたは助けているかどうかです。彼が人々の前でキリストの証し人としてすばらしい働きを為すために、あなたはその助けをしているかどうかです。悲しいことは、その足を引っ張っている人がたくさんいるということです。無言のうちに夫を愛し夫に従っていきなさいと。

皆さん、考えられるでしょう？一つの家の中に主人が二人いたり、ライバルがいたら大変です。その家庭はまとまっていきません。ですから、ペテロはこれが主のみこころだと教えるのです。権力争いがある家庭はまとまりません。祝されません。みこころに反しているからです。妻たちに与えられた責任は、与えられた夫に服従することです。それが未信者であっても…。

*** その結果、**

このような結果が記されています。「妻の無言のふるまいによって、神のものとされるようになるためです。」、これは「救われる」ということです。なぜ、未信の夫が救われるのか？妻のうるさい小言を聞いていたから？確かに、私たちは機会があれば、神の福音を語る必要があります。でも、ときに、それを中断されることがあります。それを拒否される場合があります。そのときは黙っているのです。少なくとも、

そのときに祈ることができるし、この教えに忠実に従うことができます。

なぜ、彼らが救われるのか？あなたの話ではありません。あなたの立派な話によって彼らが救われるとは教えていません。2節「神を恐れかしこむ清い生き方を彼らが見るからです。」「見るから」、彼らは自分の妻が主を恐れ主を愛し、そして、罪から離れて神の前を正しく生きたいとしている、その生き様を見るから彼らは神に引かれていくのです。私たちは主によって変えられたからです。主が私たちを新しく造り変えてくださったのです。失敗続きでも、主によって変えられたことを私たちは自分の生き方をもって現わしていくのです。だから、ペテロはあなたのふるまい、生き方が非常に大切だと言うのです。あなたのことば以上にです。

数日前ですが、アメリカのプロバスケットボールの最優秀選手が発表されました。このMVPの授与式でこの選手は次のようなことを全世界に向けて言いました。「まず、私を変えてくださった神に感謝したい。神は私に生きるとは何かを悟らせてくださった。バスケットボールは人々にそのことを知らせる機会の一つに過ぎない。」と。神が私を変えてくれたと彼は人々の前で言いました。そして、すばらしかったことは、彼のファンだけでなく、いろいろな人が彼に関してこのようなメッセージをすることです。それは、彼こそコートの上でも外でも私たちにとって最高の模範である。彼のようなすばらしい人が自分たちの町に住んでいてくれることを我々は誇りとしている。我々の子どもたちが彼のようなすばらしい人を見て生きることができること、模範にできることを感謝したいと。人々が言ったことは「彼はすばらしい選手だ！」ではなく、「こんなにすばらしい模範が私たちの町にいることを感謝する」でした。この選手が望んでいたのは、主によって変えられた人生を人々の前に明らかにすることでした。そして、その働きが成されたのです。

あなたはあなたの生き方をもって、あなたを変えてくださった神のすばらしさを証しているか？あなたはあなたの生き方をもって、神を愛していることを証しているか？と。あなたの行動以上に、あなたの心、あなたの動機が大切です。動機が正しくなければ正しい行ないへの熱意が冷めていきます。そして、その行ないが疲れて来ます。心が正しくないと、いくら良い行ないをしていてもそれが次第に辛くなって来ます。でも、動機が正しければ、その正しい心から正しい行ないが生まれて来ます。そして、その行ないは継続していくのです。だから、私たちが考えなければいけないことは、何をするのか？ではなくて、私たちの心がどのような状態にあるか？です。そして、神の関心はそこにあるのです。あなたがどのような人であるか？です。何をしているか？ではありません。どんなに多くの奉仕をしても、心が正しくなければそのすべては虚しいのです。

ですから、最初に主が妻たちに対して教えられたことは、あなたはみことばを愛してみことばに喜んで従おうとしているから、そのようにしっかり生きなさい、行ないをもって、生き方をもってそれを現わしなさいということです。

2. 主の価値観に基づく選択をする 3, 4節

3-4節「あなたがたは、髪を編んだり、金の飾りをつけたり、着物を着飾るような外面的なものでなく、むしろ、柔和で穏やかな霊という朽ちることのないものを持つ、心の中の隠れた人がらを飾りにしなさい。これこそ、神の御前に価値あるものです。」、外面的なものと内面的なもののが対比されています。

* 「外面的な飾り」か「内面的な飾り」か

この3-4節にある命令は4節にある「飾りにしなさい」です。外面的なものによって飾ってはいけな、内面的なものをもってあなたを飾りなさいというのがここでペテロが言わんとしたことです。

1) 外面的な飾り 3節

ある人たちは心などどうでもよくて、外側だけ、体裁だけを気にする生き方をしていました。高価な洋服を身につけて、高価な貴金属を身につけるとい、そのようなことを追い求める人たちがいました。ペテロは「それは神の前に虚しい」と言います。なぜなら、洋服も貴金属も永遠に続くものではないからです。地上だけのものです。そのようなものに目を留めて追い求める生き方は虚しいと言います。

2) 内面的な飾り 4節、

却って、このようなことを身につけるべきだ、それは4節に「柔和で穏やかな霊」と言います。

(1) 柔和 : 自分自身の権利を主張しないことです。私の考えでなければ…、私の思う通りでなければ…と、そのような人の特徴はすぐに怒ることです。自分の思い通りにならないと怒ります。非常に感情的です。そのような人であってはならないのです。この「柔和」はイエスご自身が使っておられます。「わたしは心優しく、へりくだっているから、あなたがたもわたしのくびきを負って、わたしから学びなさい。そうすればたましいに安らぎが来ます。」(マタイ 11:29)、「心優しく」が同じことばです。「わたしは柔和だ」と言われたのです。イエスを見るならその通りです。人間的に見ると怒っても当然の状況でもイエスは怒らなかった。十字架に架かっておられたときもイエスは人々のために祈っておられました。ペテロはそのような人であることを目指しなさいと言うのです。

山上の説教、マタイ5：5に「柔和な者は幸いです。」とあります。つまり、人から何を言われても怒らないのです。それはいつでもヘラヘラしているのではなく、その人は自分のことをよく知っているからです。人がどんなにあなたを非難しても、実際の私はそれ以下の者であることを知っているのです。私たちは思います。この人たちは私のことを分かっていない、私がどんなに罪深い者か分かっていないと。だから、人の様々な悪口に対しても腹を立てません。柔和な人です。このような人が神に喜ばれるのは、この人は感情的に話したり行動を取ることをしないからです。ソロモンはこう言います。「**柔らかな答えは憤りを静める。しかし激しいことばは怒りを引き起こす。**」（箴言15：1）と。感情的に何かをすると必ず感情的に返って来ます。ペテロはこのような柔和な心を持つことが必要だと言います。

（2）穏やかな霊：これはいろいろなことに惑わされたり、いろいろなことで心乱れることがあっても、落ち着いて対処できる人のことです。なぜなら、いろんなことがあっても、その人の心の中には常に平安があるからです。その平安をもって様々なことに対処できるのです。この人は感情的でなく、しっかりと主が喜ばれることを考えてそれを選択できる人です。

優しく、そして、感情に支配されるのではなく、主が喜ばれることを選択できる人です。これらの性質こそが朽ちることのないものである、これらのものこそが永遠に価値あるものである。私たちがこのような人に変えられるなら、あなたは主の前に立つときに大きな祝福をいただくと言います。

皆さん、いかがですか？しっかりと天に蓄える、神の前に立つとき神から祝福をいただく、そのためにはあなたは何かをするのかではない、どんな人であるかです。ここにあるように、あなたは柔和で穏やかな霊を身につけているかどうか、その点において成長しているかどうかです。それがあなたの性質であるかどうかです。このことは御霊の実を思い出させませんか？ガラテヤ5：22-23に記されています。「しかし、御霊の実は、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、**23 柔和、自制**です。このようなものを禁ずる律法はありません。」と。「柔和」は御霊の実の一つです。そして、「穏やかな霊」とはその人の中にいつも「平安」があるのです。

ですから、ここに記されているこの特徴をもった人は、先に見た通り、神を恐れて神の前を正しく生きたいとして、そのように生きている人です。その人は間違いなく、キリストに似た者に変えられています。キリストに似た者に変えられている人は柔和な霊をもち、穏やかな霊をもっています。それがその人の特徴です。なぜなら、その人は信仰において成長しているからです。これこそ、神の前に価値あるもの、これこそ高価なものだと神は言われます。この地上のいかなる高価な宝石よりも…。これを飾りにしなさいと言うのです。4節に「**心の中の隠れた人がらを飾りにしなさい。**」とあります。これは命令形を使っています。「こうしなさい、しっかりと主に従い続けて、主にあって成長し、人々がまさにあなたの中にキリストご自身の姿を見るように。柔和で穏やかな霊を身につけた人であるように」と言うのです。

私たちが覚えておかなければいけないことがあります。この当時の女性は置かれている立場も境遇も今とはかなり違っていたということです。この当時、女性は物でした。男性はどのような理由ででもいつでも妻を離婚することができました。でも、妻は夫を離婚することはできませんでした。酷いことは、妻は競技場に行ったという理由で離婚されたケースがあります。アルコールを口にしたという理由で妻を殺したケースもあります。人として見ていないのです。物でした。このような中で、彼女たちは自分たちが置かれている立場を嘆きました。しかも、女性は性的な道具でしかなかったのです。このような境遇にいる女性たちに対して、あなたがたはその中でもしっかりと主を見上げなさい、しっかりと主の前を正しく生きていきなさい、そうすれば、人々はあなたの生き方を見て、あなたを救いあなたを変え、あなたのうちに働いておられる真の神を見るからと言うのです。ペテロは大変なメッセージを語っているのです。

3. 主への揺るがぬ信頼 5節

今ペテロが言ったことは机上の空論ではない。実際に、そのように生きた婦人たちがいるとペテロは言います。彼女たちの特徴は、

1) 聖さ

5節に「**敬虔な**」とありますが、これは「聖さ」という意味です。彼女たちは道徳的にも正しく歩もうとしていました。そのような人のことです。

2) 信仰

そして、彼女たちは「**神に望みを置いた**」とされています。彼女たちはそのような境遇にあっても、その境遇を嘆いて、自分の好きなことを選択することもできたにも関わらず、その中で主を見上げたのです。確かに、世の中は完全に神を無視して神に逆らっているけれど、我々を造ってくださった神は真実な方である、主がこのように生きていきなさいと言われたからそのように生きていこうと、彼女たちは大変なその社会の中にあっても主に従い続けていったのです。ペテロはその人たちのことを引き合い

に出しています。具体的な名を挙げていませんが、彼女たちに共通していたのは、常に神の前を正しく歩んで、罪から離れて聖く生きて、どんなときにも主への信頼を失わなかったことです。ペテロはこのように言っています。Ⅰペテロ 1：3「私たちの主イエス・キリストの父なる神がほめたたえられますように。神は、ご自分の大きなあわれみのゆえに、イエス・キリストが死者の中からよみがえられたことによって、私たちが新しく生まれさせて、生ける望みを持つようにしてくださいました。」と。

これが主に祝された婦人たちでした。

4. 主を喜ばせることへの渴望 6節

「たとえばサラも、アブラハムを主と呼んで彼に従いました。」と、ここである一人の婦人「サラ」を例に挙げています。

1) 夫に対する態度

「サラ」はアブラハムの妻です。彼女はどのようにして夫に従ったのか、「アブラハムを主と呼んで」とあります。これは、明らかにサラは夫を尊敬していたことを示しています。自分の主人として夫に従おうとしていたのです。「従った」ということは、サラはアブラハムのリーダーシップに従ったということです。今、私たちが見ている通りです。ペテロは、そして、神ご自身は「彼女は祝された婦人であった」と言います。もちろん、サラもいろいろな罪を犯しました。失敗もありました。しかし、神はサラがこのように夫に従い続けた様子を喜んでおられました。そのことが記されています。

2) 模範に倣うことの勧め

そして、最後にこの模範に倣うことの勧めが記されています。6節の続きに「あなたがたも、どんなことをも恐れなくて善を行えば、サラの子となるのです。」とあります。

(1) 恐れない：「どんなことをも恐れなくて」とは直訳すると、「いかなる恐れにも恐れなくて」となります。ここには訳されていないことばがあります。ギリシャ語で「非常な恐怖」と訳せることばです。「恐怖、怯え、不安、動揺をもたらす状況、出来事」です。そのようなものがあってもそれらを恐れなくて、善を行ないなさいと言います。確かに、このようなことが考えられます。夫が神を知らなければ、彼らの関心は神を喜ばせることではありません。そうすると、妻の中にいろいろな不安が生じて来ます。この人に任せておいて大丈夫なのだろうか？と。でも、神はその夫に従いなさいと言われます。繰り返しますが、罪を強要される場合を除いてです。つまり、神はあなたに夫を変えなさいと言っているのではありません。神が言われるのは「夫に従いなさい」です。あなたは夫にとっての最高の助け手だから、夫を励まして上げなさいと。

どうでしょう、皆さんはご主人から感謝されていますか？あなたの助けがあつてこうして信仰の歩みを為すことができるのか、あなたの助けがあつてこのように私は生きることができるのか、あなたの助けがあつてこのように私は信仰において成長しているのか、そのためなのです。

(2) 善を行なう：ですから、いろいろな不安があつても、あなたがすることはしっかり主を信頼すること、そして、あなたの責任は常に主の前に常に「善を行なうこと」、正しいことを行なうことです。「善を行なう」という動詞は現在形を使っています。継続してそのようにしていきなさいということです。大丈夫だろうか？これでいいのだろうか？と不安が生じた時も、しっかり主に信頼して主に従い続けていくのです。みことばが教えたように、この婦人たちの希望は神でした。何が起ころうと、主がすべてを支配しておられると知って、信じて、その主にすべてをゆだねたのです。

3) その結果

そして、ペテロは言います。もし、あなたがそのように生きるなら「あなたがたはサラの子となる」と。信仰の偉大な婦人、その特徴を兼ね備えた、まさに、子どものような存在になると言います。サラの信仰を受け継ぐということです。

これが主を恐れている人たちの特徴だと言います。彼らは喜んでみことばに従っていきます。彼らは本当の価値を知っています。何が神の前に価値があるのか、どんなときでも主への信頼をもっています。どんなときでも主を喜ばせることを考えながら生きています。そのような人たちだと言います。だから、彼らは神に喜ばれ用いられたのです。

結論

今日、私たちはこの母の日、ペテロが「妻たちよ、このように生きなさい」と教えたところを見ましたが、これは妻たちだけへの教えではなく、この中にはすべての人に適用される大切な教えがあります。みな、主を恐れて、そして、聖さを求めて歩いていくことです。先にも言った通り、この当時、クリスチャンの妻として生きることは大変でした。夫が信仰をもって妻がそれに従っていくことは問題ではなかった。そのような社会に生きていた女性たち、夫の道具でしかなかった妻が、イエス・キリストを信じるという信仰に至ったときにどのようなことが彼女たちに起こったのか？少しは想像がつきます。そ

の中にあっても彼女たちは神の前に正しいことをしようとしました。そして、その信仰が大いに祝されたのです。

最後に、皆さんに質問したいのですが、あなたはご自分の子どもたち、また、孫たち、また、教会という世界を考えたときに、あなたの信仰の後輩たちと言えるでしょう、彼らにとってあなたは模範となっているかどうかです。たとえば、あなたは彼らに生きることの喜びを示していますか？彼らは皆さんを見て「生きることはすばらしい！」と学んでいますか？主に従うことの喜びを示していますか？彼らはあなたを通して、本当に主に従うことはすばらしいと教えられていますか？みこころに従うことの喜びを示していますか？彼らは皆さんを見て「そうだ、神のみこころに従うことが最善なのだ」とそのように学んでいますか？みこころに反したとき、どうすればいいのかを彼らに示していますか？それによって彼らは「そうだ、我々はみな罪を犯すけれど、そのときはこうすればいいのだ」とあなたを通して学んでいますか？主を愛することがどれほど大切かをあなたは彼らに示していますか？彼らはあなたを通して「本当に主を愛することが一番大切なのだ」と、そのことを学んでいるかどうかです。また、主を愛するとはどのように生きることなのか、そのことを具体的に示していますか？ですから、あなたの後に来る者は「そうだ、このように生きていけばいいのだ」と、そのことをしっかりあなたから学んでいます。

最後に、どんな妻になるべきか、どんな母となるべきかを、あなたは後に来る者たちに示していますか？女の子は母親に似ると、どのような模範を示すか？です。もちろん、親としてどのような模範を示していくか？です。私たちはそのような大きな責任を負っていることを覚えなければいけません。

皆さん、感謝なことに、このレッスンを通して私たちが学ぶことは、残念ながら、私たちは子どもたちの心を変えることはできない、でも、あなたの生き方をあなた自身は神の助けによって変えることができるということです。結局そこです。神があなたに望んでおられることは、あなた自身が信仰者として成長することです。それをあなたは第一にしなければいけません。あなたが良き妻になりたいなら、まず、あなたがしっかり主との時間を取って、主にあって成長することです。あなたが良き母として生きていこうとするなら、あなたはしっかり主と時間を取って、主にあって成長することです。あなたが主を恐れる者として、聖さにおいて成長するなら、あなたは良き妻として良き母として、良き信仰者として、この世にあってすばらしい模範を示すのです。

そのようにして生きなさいと言います。しっかりご自分を見てください、皆さん。そして、私たちの祈りが「主よ、どうぞ、私を変えてください。あなたが望んでおられるように私は生きていきますから、主よ、私を助けてください。あなたを恐れる者として私は成長していきたいのでそのように決心しますから、どうぞ、私を助けてください。罪を憎んで罪から離れ、聖さにおいて成長したい、そのように歩んでいくから助けてください。」と、そのようにして生きていくのです。そのときに主はあなたを用いてくださる。しっかり、そこに目を留めて、主が望んでおられる歩みを継続していきましょう。

《考えましょう》

1. 我々は何において成長することを目標として生きるべきでしょう？
2. どうしてそれが大切なのかを考えてください。
3. 主イエス・キリストに似た者へと変えられ続けるには、どうすれば良いのでしょうか？
4. 主を喜ばせることがどうして大切なのでしょう？